

平成26年度第1回藤沢市図書館協議会議事録

開催日時 平成26年6月25日(水) 午後3時～午後5時

会場 総合市民図書館 2階第1会議室

出席者 委員側7名

委員長 大村 勝敏

委員 石塚 光里 稲田真理子 齊藤はるみ 竹中 翔子 中村 昭彦
山田 宗機

図書館側12名

総合市民図書館 館長 栗原 かほる

主幹 五島 陽子

主幹補佐 伊勢 清美

主幹補佐 吉田 渡

主幹補佐 饗庭 寛子

主幹補佐 保田 善章

上級主査 古谷 一幸

事務員 石田 陽子

南市民図書館 主幹 渡貫 三吉

辻堂市民図書館 責任者 松浦 かをり

(NPO法人 市民の図書館・ふじさわ)

湘南大庭市民図書館 責任者 長坂 伸子

(NPO法人 市民の図書館・ふじさわ)

事務局長 武 清 (NPO法人 市民の図書館・ふじさわ)

1. 開会 司会・進行は大村委員長

2. 議題
- (1) 6月議会について
 - (2) 平成26年度図書館の運営目標について
 - (3) 平成26年度特別整理について
 - (4) こどもの読書週間及び4～6月の各館の催しについて
 - (5) その他

議題（１）６月議会について

事務局 = 6月議会においては、図書館に関する議案、一般質問はなく、子ども文教常任委員会で、新たな生涯学習施設の整備について報告がありましたので、関連ということで、その概要を説明します。

①（仮称）藤澤浮世絵館

湘南C-X区域の中の「ココテラス湘南」7階に、今まで収集してきた藤沢市所蔵の「浮世絵」を中心とした資料等の展示を行い、直接鑑賞していただくとともに、子どもから大人まで自由に学べ、憩える施設を設けるもの。

②（仮称）アートスペース湘南

「ココテラス湘南」6階に、若手芸術家等が創作した美術作品を展示できるスペースと、公開講座など美術学習ができるスペースを設けるもの。

③（仮称）ふじさわ宿交流館

遊行寺門前の旧労働基準監督署跡地に、歴史・文化に触れることができ、ウォーキングをされる方の休憩の場として、展示・交流スペースやトイレ等を設けるもの。

議題（２）平成26年度図書館の運営目標について

事務局 = 資料に基づき説明。おおむね昨年と同様の目標となっておりますが、変わった点と主なポイントについては、次のとおりです。

① 市民の求める資料・情報を迅速・的確に提供できる図書館、市民生活に役立つ図書館をめざす。

- ・資料の長期延滞者とともに資料を長期にわたって弁償しない者に対し、利用制限を適用する、となっていたが、今年度は、昨年よりさらに周知徹底を図り実施していくということから、定着させるという表現とした。

② 子どもへのサービスを重視する。

- ・ふじさわ子ども読書プラン2015（2次計画）は、今年度5カ年計画の4年目を迎えることから、第3次計画への改定に向けた取り組みを進めることとした。今年度～策定委員会の立ち上げとアンケートの実施
- ・子ども青少年部等と連携し、資料配付事業の拡充を図ることについてブックスタート事業、こんにちはあかちゃん事業、3歳6か月児健診時に加え、人数的に限定される両親学級ではなく、大体の方が来られる母子健康手帳交付時などでの資料配付事業の拡充を図ることとした。

④ 市民図書室のサービス拡充を図る。

- ・ 昨年は、蔵書照会等に的確に対応するため、機器のリプレースを実施する、となっていたが、それが完了したので削除した。

⑥ 効率的な図書館運営をめざす。

- ・ 雑誌スポンサー制度について、昨年12月議会での質問答弁を受け、今年度導入に向けた取り組みを進めることとした。
- ・ 新しい時代に即した「これからの図書館」についての検討を進める、については、通常業務の範囲ということで、新・行財政改革実行プランの項目からはずれたことから、その表現を削除した。

委員 = この運営目標は、対市民に宣言するものだとすると、前段の文章が職員に対する表現になっているように思います。

事務局 = この目標は、4館11室の職員・業務員に対するマニュアルに記載しているもので、ホームページ等で対市民に公表するときは、少し表現を変えて記載する予定ですので、よろしくをお願いします。

委員 = 目標の中には、数値目標を入れるべきではないでしょうか。それほど高い目標は必要ないですが、入れられるものがあれば、ぜひ来年に向けて検討していただければと思います。

事務局 = 教育振興基本計画や以前あった総合計画等では、図書館としての数値目標はいくつか立てています。先ほどもお話ししたとおり、この運営目標は職員・業務員等全員向けのため、皆で力を合わせてこうしていきましょうというものになっています。公表する目標をどうするかについては、今後の検討課題とさせていただきたいと思います。

委員長 = これは職員向けのものということでもいいと思いますが、対市民に目標として公表する場合には、やはり数値目標は必要だと思います。

議題（3）平成26年度特別整理について

事務局 = 資料に基づき説明。昨年と変わった点は、特別整理に伴う休館日を、市民の利便を図るため、10日から8日に短縮したこと、ただし、辻堂館は、地下照明改修工事を行うため、今までどおり10日間の休館日で、時期も別途9月に設定したところです。

委員 = 図書の点検自体は何日くらいかかるのですか。

事務局 = 一冊ずつなぞって点検する作業は、大体3日間で終わっています。その後、突合作業や点検漏れがないかの確認、精密化、研修などを行っています。

委員 = 改修工事等もあり、この日程になっているかと思いますが、もう少し短くならないでしょうか。

- 委員長 = 2日減らしたのはどの部分を短縮したのですか。
- 事務局 = 館によって若干違いますが、今年は辻堂館を除き、どこも館内の大きな改修、リニューアル、大幅な移動等がなかったことがあげられると思います。ICタグを導入した場合、点検作業自体はもっと短縮できると思いますが、バーコードの場合、どうしても一定の日数はかかってしまいます。
- 委員長 = そうすると、来年以降また増えるという可能性もありますか。
- 事務局 = 今年の状況からみて、8日あれば大丈夫とっていますが、辻堂館のように大規模な改修工事を行う場合は、10日になることもあると考えています。また、工事の内容・規模によっては、一昨年コンピュータシステムリプレイス時のように、点検作業はやらずにそちらに集中して期間内に収めるということもありうると思います。

議題（4） こどもの読書週間及び4～6月の各館の催しについて

各館から、資料に基づき説明。

- 委員 = 各館それぞれ独自の催しを行っているとは思いますが、報告の内容や項目そのものは、やはり統一した方が良いと思います。それと、辻堂の保育園のおはなし会というのは、アウトリーチ（出張サービス）ですか。
- 事務局 = 今日高砂保育園が来館したのですが、こちらから出かけるのではなく、散歩で館に来て、おはなし会、自由読書、団体貸出をして、ほぼ午前中で帰るといふ、保育園の行事として実施されているものです。
- 委員 = 「つじねこたんけんくらぶ」に参加された子どもの年齢はどうか。
- 事務局 = 親子連れで参加されている方もいますが、大体幼稚園から小学生くらいを対象に準備しています。
- 委員長 = 「みんなでつくろう！！本の木」で、総合館が218件、大庭館が404個となっていますが、これは同じことですか。
- 事務局 = 館によって紙の大きさが違うとは思いますが、基本的には、1件＝1個＝1枚ということです。
- 委員 = 「本の木」に子ども達はどんな本をつけていますか。それと、各館のおはなし会で使う絵本は、大体何冊くらい使用して、またどのように選択しているのですか。
- 事務局 = まんがも「本の木」の対象にしているので、初めの頃はまんがを書く子が圧倒的に多かったのですが、最近、図書館のブックリスト等で紹介しお薦めしている絵本が書かれていることが多くなっています。
- 次に、おはなし会で使う本ですが、おはなし会の時間は30分から40分程度で、その中で、子ども達が飽きないように、紙芝居や手遊び、わらべう

たなどもやっているのですが、おはなし会で読む本は大体3～4冊というところ
です。選択については、図書館としてぜひ読んでほしいもの、子ども達に人
気のあるもの、読み継がれたもの、新しいものをおりませで選んでいます。

委員 =各館の行事はどのように立案されているのですか。担当者なのか、あるいは
皆で協議して決めているのでしょうか。

事務局 =例えば「本の木」は、2000年の子ども読書年の際に、4館の児童担当の職
員が集まって何かできないかということで発案されたものです。総合館独自
の行事の場合も、まず児童担当の職員・業務員で話し合って案を決め、必要
があれば他の担当とも調整し、最終的には館全体で決定します。

委員 =各館の児童担当者は何人くらいいるのですか。

事務局 =総合館は、児童担当専任が職員2名、専門業務員2名、あと担当主幹補佐が
総括するという形になっており、YA担当は児童担当が兼任しています。
分館は、専任ではなく、兼任で児童やYAを何人かで担当しています。

事務局 =行事の立案は、まずそれぞれの担当内でまとめた後、館内会議にかけて
決定するという形をとっています。展示の場合は、年間スケジュールを最初
に決め、タイムリーなものはその都度対応するようにしています。また、
大きな行事については、管理職や主任クラスが提案したり、話し合ったりす
ることもあり、その場合は、決定後担当者が実施に向け取り組むというこ
とになります。

事務局 =総合館の成人のフロアには、中央、西口、行政支援の3カ所の展示スペース
があり、貸出サービス担当内（参考調査、予約、資料）で、それぞれ所管を
振り分けています。展示内容は、水曜日、職員・業務員がそろった打ち合わ
せの中で、話し合って決めています。また、映画会の内容は、視聴覚担当で
決めています。

委員 =私が質問したのは、行事内容を各館毎に決めた方がよいか、行革の観点から
総合館で集中して決めた方がよいか、と思ったものですから。現状ではやは
り、立地条件、地域性などがあるので、各館毎にやっているようですが、
将来もそのままでもいいか、ということはあると思います。また運営目標に
戻るのですが、6つの大項目のうち、①②④⑤は、図書館として毎年当たり
前のようにやるべき内容で、③と⑥が集中的にエネルギーを注ぐ内容なの
かなと思います。職員が全部を覚えきれないような内容ではなく、選択と集中
ということで、今年が目玉とするなり、強化する項目を1つか2つに絞って
やった方がいいのではないかと思います。

事務局 =先ほど申し上げたとおり、現在の図書館のスタッフのうち、正職員は少数で、
大半は非常勤職員で、2館はNPOの運営になっています。この目標は、
そのスタッフに研修等の際に全員に周知徹底する内容となっており、委員ご

指摘のとおり毎年あまり変わりませんし、いくつかの項目は、図書館として当たり前の内容です。その中で、選択と集中という観点では、今年はやはり③の子ども読書活動の推進と、⑥の雑誌スポンサー制度の検討と、これからの図書館をどうするかを検討がポイントであるとの共通認識は持っています。

委員長 = 運営の方針と目標が混在しているので、わかりにくくなっているのかなと思います。目標は、数値目標も含めて、こういう状態にするというもので、それが達成したかどうかで評価をする指標となるものです。したがって、方針の中で、図書館としてのマニュアルあるいは恒常的な内容をうたっておき、その年に特に達成しようとする目標を別途設ける等の検討をされたらいかがでしょうか。

議題（５）その他

① 武雄市図書館の開館 1 周年の状況について

事務局 = 資料に基づき説明

委員 = 図書館登録者のうちの市民の割合が、指定管理以前より減っているということですね。

事務局 = 指定管理以前の登録者数は、武雄市に問い合わせたもので、現在の数字は、指定管理者のCCCの報道用の公表数字です。それぞれ登録者数に市内居住者割合をかけると、以前は約24,800人、現在は約12,000人となっています。登録者数そのものも直営の時の方が多いのですが、藤沢市では3年間利用しなかった人を登録削除していますが武雄市の場合累積数字ということなので、登録者のうちどれだけの人が実際に利用しているかは不明です。市民の割合については、登録者の範囲を、以前は県内居住者までだったのを、現在は全国誰でも登録できるということにしたことから、必然的に市民の比率が減ったということです。

委員長 = 武雄の図書館及びこの施設の目標は、まちおこしの一環として、どれだけ人を呼べるかにあります。したがって、市内・市外を問わずとにかく多く来て欲しい、また、貸出利用者数が登録者に比べて多いのは、Tカードで使うたびにポイントが加算されることによるものと想定されます。ただ、いずれにしても、これだけの人を呼べるというのは、評価できると思います。

② その他

委員 = 行事や展示の企画は、職員がされていると思います。先ほど、現在は非常勤職員が多いと伺いましたが、その研修体制について聞きたいと思います。

事務局 = 研修については、市の研修と派遣研修の2種類があります。市の研修は、行政職員として全般的に必要な知識を学ぶもので、派遣研修は、図書館職員としての資質を向上させるための研修です。これには、最も多い神奈川県図書館協会の研修の他、日本図書館協会や図書館総合展などの研修に、4館の職員・専門業務員・NPOの主任クラスのスタッフが参加しています。その中で、行事の企画の仕方についても研修が行われています。

事務局 = 私から職員の体制について説明させていただきます。直営館には、職員、週4日勤務で、司書資格を持ち、図書館サービスについては職員と同様の仕事をする専門業務員、そしてカウンター業務を中心に行う一般業務員、臨時職員がいます。NPO委託館には職員はおらず、正副責任者、主任、スタッフ、サブスタッフが、図書館サービス業務を担っています。これらのうち、企画や選書等を行うのは、職員と専門業務員、NPOの主任クラスとなっています。専門業務員については、司書資格を取得する段階で、図書館業務の基本的な知識は習得していますが、年ごとに新たな情報を得ていくことが必要であるため、館内及び派遣研修に参加させています。一般業務員と臨時職員には、年2回の全体研修で、図書館業務の内容や接遇などを学んでもらっています。このように、図書館としても研修に力を入れています。一方で図書館スタッフとしての資質の向上には、やはり日常業務の中での学習と、自己研鑽というものがきわめて重要だと考えています。

委員 = 今説明されたとおり、基本はOJTと自己研鑽であり、それをきちんと新しい人に伝えていけるような体制、対応が必要ですが、藤沢ではそれができているのかなと感じました。

委員長 = そうですね。藤沢の場合、OJTがしっかりできているので、NPO体制になっても、従来からの図書館運営が存続できているものと思います。

委員 = 各館とも毎年同じような行事を行っている中でも、残していきたい、変えない部分と、流行とか時代に合わせたものを取り入れたり、工夫してやっているなと思いました。これからも学校と連携し、活性化させてもらいたいと期待しています。

委員 = 図書館には、先の職員・スタッフの他に、大勢のボランティアがいて、おはなし会などを充実して行っている、またそのボランティアの方も、本当によく勉強して能力の向上を図っているなと感じます。資料を見ると、映画会やおはなし会などの参加者がやや少ないように思いますが、小学校や幼稚園、保育園などにポスターやチラシを貼ってPRすれば、もう少し参加者がふえるのではないですか。

事務局 = こどもの読書週間や夏休みなど、特定期間のポスター・チラシは、小学校や保育園にPRさせてもらっていますが、普段の催し物についても検討してみたいと思います。

事務局 = 今委員が言われたとおり、図書館は本当に多くのボランティアに支えられています。その中に、配架ボランティアといって、返却された図書を正しく書架に収納する業務を行ってもらっている方達がいるのですが、その方達も個人的に良く勉強されているようです。

委員 = 本当に各館でそれぞれ充実した行事や取り組みをされているなど感じました。一点、報告書については、ある程度統一していただけるともう少し見やすくなると思うので、検討をお願いします。もちろん、写真など工夫していただいている内容は残してもらいたいと思います。

委員長 = 4館共通の行事については統一した書き方で、各館独自の催し等についてはそれぞれ特徴を出すという形でいいのではないですか。

事務局 = 少し見づらくてすみません。今後検討して、共通して実施しているものは統一した記入の方式にし、独自のものはそれぞれの館で上乘せする形にするようにしていきたいと思います。

③ 図書館協議会委員の改選について

事務局 = 資料に基づき説明。

委員 = 協議会の役割を明確にした方がいいと思っています。「館長の諮問に応じ答申する」とありますが、私が務めた6年間では1件もありませんでした。報告や方針に対して、質問したり意見を述べるだけではあまり意味がなく、やはり諮問・答申という形をとるべきだと思います。この場合、委員にも相当の負担がかかりますが、委員もそれに耐えられるような人を選ぶ必要があるのではないですか。あと、6年間で館長が5人目、トップである館長がこのように頻繁に替わるのはどうかと思います。

委員 = 公募で選出された委員として、少しでもお役に立てればということで、2年間務めさせていただきました。ただ、自身は行政の図書館勤務経験者でもあるので、厳しい財政状況などもあり、あまり要望的な発言はできなかったのは事実です。今は、これからの図書館をどうするかが問われているとき、状況であり、委員としてはもう少し勉強しなければと思いました。藤沢の図書館は、満足のいくものではありませんが、さらにより良い図書館目指し、どこをどう改善していけばいいのかを明確にしていくことがこれからの図書館にとって大切になると考えています。2年間大変勉強になりました。

委員 =私は社会教育委員会議からの選出でしたが、その立場であまり積極的な発言ができず、逆に勉強させてもらったように感じています。2年間で図書館の運営についていろいろ知ることができたので、これから何らかの形で図書館に関わっていければと思っています。

委員 =私も社会教育関係の会から選出されたのですが、図書館に関するかなり中身の濃い専門的な議論が多く、自分でいいのかなと思いつながりながら参加してまいりました。ただ、図書館の近くに長く住み、利用してきた立場から、小さなことかもしれませんが発言させていただきました。これからどうなるかわかりませんが、命ある限り図書館とは関わりを持っていきたいと思っています。大変勉強になりました。

委員 =学校関係は、おそらく新しい委員になると思います。学校と図書館はものすごく密接なつながりがあります。子どもを育てる中での図書館の役割は大きく、そのことを伝えていければと思ってやってきました。これからも学校現場の中でできること、様々なものを活用して、学校と図書館の連携にお役に立っていきたいと思います。

委員長 =先日、ある雑誌のアンケートで、藤沢が主婦にとって住み良いまち日本一に選ばれました。その中でも、図書館が行政の満足度第1位ということで、主婦の満足度と図書館の満足度とは確実につながっていると思います。今までいろいろ言ってきましたが、藤沢の図書館は決して悪くはなく、県内や全国と同様の都市の図書館と比べても良い部類です。ただもちろん不満もあるし、改善すべき点もありますし、また、素晴らしい初期投資の財産のお陰で現在があるのであり、その財産の上に立って、より良い図書館目指して、今一步アピールしていってもらいたいと思います。2年間どうもありがとうございました。以上で26年度第1回図書館協議会を終了いたします。